

桃山時代の茶の湯の器は、わざと歪みを加えた形状や、窯のなかで偶然に生みだされた自然釉の変化などを特色としたものでした。昭和のはじめに考古学上の古窯址発掘の気運を受けて、美濃焼の荒川豊蔵、備前焼の金重陶陽らの陶工たちの間で、それまであまり顧みられなかった、これら桃山時代の茶の湯の器を評価し、再現を試みようとする動きが新たにおこりました。これは、中国や朝鮮半島の古陶磁ばかりでは

なく、日本にも桃山茶陶という独自の美を誇るやきものがあるということを広く見直す機会となるものでした。ここでは、こうした昭和前期の新動向を受けて、古典の創出にも意欲的に取り組んでいる信楽焼や備前焼などの焼締陶や、茶の湯の器としての伝統を古くから伝える美濃焼、伊賀焼、萩焼、高取焼の現代作品を紹介します。

I—岐阜・美濃焼
荒川豊蔵《瀬戸黒花入》
昭和50年(1975)頃

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

Regional Features of Japanese Crafts I
Sannomaru Shōzōkan Exhibition Catalogue No.27

Edited by Museum of the Imperial Collections, Japan
(Sannomaru Shōzōkan)

Printed by Ōtsuka Kōgeisha, Ltd., Japan

Translated by Tsuruoka Atsuo

Published by Imperial Household Agency, Japan

Issued on January 12, 2002

工芸風土記・壺

諸国やきものめぐり

三の丸尚蔵館企画展図録 No.27

編集：宮内庁三の丸尚蔵館

制作：大塚巧藝社

翻訳：鶴岡厚生

発行：宮内庁

平成14年1月12日